



「詩の暗唱」続けています

7月号でも書きましたが、「詩の暗唱」を通して、大脳を活性化するとともに、子どもたちに表現力や思考力を身に付けさせ、語彙を増やしたり、言語力（言葉の力）を高めることを目的に取り組んでいる「詩の暗唱」を続けています。

11月の課題（子どもたちが覚える詩文）は、「おちば」「その一言で」「ひとつの言葉」の三編。靴箱の柱のところへ掲示してあります。休み時間になると子どもたちが「試験」を受けるため、校長室にやってきては、**緊張した面持ちでチャレンジしています。大きな声で堂々と唱える子。一言一言思い出しながら、ゆっくり唱える子。途中詰まりながらも、最後まで頑張る子。失敗してもあきらめず、何回目かでようやく合格する子。試験を受ける子どもたちの様子は様々ですが、「合格」の言葉をもらった瞬間の喜びの表情は、どの子も自信に満ちあふれていました。**低学年の子は、まさに「やったー！」と小躍りしながら校長室を後にする子も大勢います。校長室の外では、待っていた友達と一緒に合格したことを喜び合う声が聞こえてきます。そこに通りかかった教員が、「よかったね」「頑張ったね」と声をかける…。

10月の詩の合格者は**A（高学年向き）が34名、B（全学年向き）が135名**で9月の合格者に比べ2倍以上増えました。11月はさらにこれを超えてほしいなと思っています。これからもあいさつや返事、詩の暗唱も含めて「声に出す活動」も大事にしていくとともに、子どもたちの「やったー！」の聲が飛び交う学校を目指し、日々の教育活動の充実に努めてまいります。